

“鬼”の性別についての一考察
—「読みがたり」に登場する“鬼”の話から—

A Study on the Sex of "Oni":
From the Stories Appearing in "Yomigatari"

林 鎮代*

Shizuyo HAYASHI

抄 録

昔話に登場する“鬼は”，「一本または二本の角を頭に生やし」「大きな体は赤や青や黒の色をしている」「毛深く力は強い」などと表現され，男性としてイメージされる場合が多い。“鬼”は，山奥に住まい，村に来ては食べ物や財産，娘をさらっていく悪しき存在であり，話の結末では人間に退治されることとなっている。

「読みがたり」47巻は，2004年から2005年にかけて誕生した。それらは，以前から地方にあった昔話を，子どもへの教育的活用を意図として再編集されたものである。

「読みがたり」には，わずかではあるが女性の“鬼”も登場している。そして，人間に退治されない結末の話も収録されている。女性の“鬼”は，老女とされているが，男性の“鬼”については年齢を示す表現はない。

“鬼”の性別と話の結末には，関連はあるのか。“鬼”の性別によって，子どもに伝えたい内容は異なってくるのか。「読みがたり」から，“鬼”の性別による影響を探った。

1 はじめに

「読みがたり 〇〇の昔話」^{1~47)}47巻は，2004年から2005年にかけて完成している。それらは，以前から地方にあった昔話集（1974年頃の初版本）を子どものために読みやすく再編集されたもので，編集には各県の小学校教育研究会国語部会・学校図書館協会・民話研究会等と名付けられた教育に関係した組織である。こうした経緯からも子ども（主に小学生）を対象とした教育的活用を意図として再編集が行われたことが分かる。

この中には“鬼”の登場する話も多く収録されている。当然，“鬼”の昔話で子どもに何かを伝え

* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

ようとしていると考えられる。その意図については、林「象徴としての“鬼”と“トッケビ”」⁴⁸⁾と林『読みがたり』に登場する“鬼”⁴⁹⁾の中でも述べている。その中で鬼”の姿は「“鬼”は、一本または二本の角を頭に生やし、見上げるような大きな体は赤や青や黒の色をしていて、毛深く力は強い。衣服として、虎などの獣の皮を腰にまとっている。」⁴⁹⁾とあるように、“鬼”は男性と考えられ場合が多かった。しかし、「読みがたり」では女性の“鬼”も登場させている。子どもへの教育を強く意識して収録されたはずの「読みがたり」で、男女の“鬼”の話を収録した意図についての研究はまだなされていない。“鬼”の話において、性別はどのような効果をもつのかを明らかにしたい。

また、本研究での「読みがたり」とは、「読みがたり ○○の昔話」^{1~47)} 47巻のこととする。

2 「読みがたり」に登場する“鬼”の話

(1) 話数と話の概要

「読みがたり」において、どのような“鬼”の話が収録されているか、またどれだけの数が収録されているかを調べ、表1に表した。

“鬼”の話とする選択基準は、『読みがたり』に登場する“鬼”⁴⁹⁾を参考とした。ただし、今回は“鬼”の性別が重要となるために「食わず女房」で「鬼ばばあ」とされた1話は含めるが、女房を化け物（鬼が化けたかは不明）や蜘蛛としている2話については除外した。

表1 「読みがたり」に収録された“鬼”の話（○数字は“鬼”の話数）

地域・話数		鬼の話の概要	編集
北海道	北海道 49 ①	「ばけものとチョウザメのかくとう」昔、神居古潭の奥に鬼みたいな化け物がいつも暴れていた。ある日、石狩川で寝ていたチョウザメを踏んづけ、大格闘になった。その時崩した岩で石狩平野は出来、河口はずっと先になってしまった。	2005 北海道むかし話研究会・北海道学校図書館協会
	青森 43 ②	「たんこと鬼婆」（「三枚のお札」に同じ） 「下北むがしっこ」恐山の鬼は毎日一匹ずつ生き物を食べる。狸の番になると、狸は踊りを踊り、鬼も踊り出し狸を食べずに鬼は山に帰った。	2005 青森県小学校国語研究会
東北	岩手 45 ②	「大工と鬼六」洪水で困る川に橋を架けた鬼は、大工に鬼の名前を当てたら目玉をとらないと約束する。大工はこっそり名前を聞いて目玉を守る。 「鬼岩」御箱崎半島の北から鬼がホタテを取りに来る。岩投げの力比べに負けて鬼は山に逃げる。	2004 岩手県小学校国語教育研究会

	宮城 5 8 ②	「地獄めぐり」(「地獄のそうべえ」と同じ) 「小僧と鬼婆」(「三枚のお札」と同じで、山姥が鬼婆となっている)	2005 「宮城の昔話」刊行委員会
	秋田 4 0 ①	「酒てん童子」山門の捨て子は血を吸って成長し、山奥から出てきては悪さをした。源頼光は老人にもらった酒で酒てん童子を酔い潰し首を落とす。首は空を飛び帰り道の頼光を襲うが、8枚重ねの兜の7枚目しか歯が立たない。粉々にされた首は、蚊・蚤・虱・蛭等になって未だに血を吸うそうだ。	2004 秋田県国語教育研究会・県学校図書館協会
	山形 4 8 ①	「三枚のお札と鬼ばんば」(「三枚のお札」と同じで、山姥が鬼ばんばとなっている)	2005 とんと昔の会・山形県国語教育研究会
	福島 5 7 ①	「 ^{だいぞう} 大三の鬼たいじ」困り者の鬼がいて、大三が退治をかって出た。酒と食べ物を担いで山に行き空腹の鬼に渡し諭すと、鬼は改心して2度と人里に来なくなった。	2004 福島県国語教育研究会
関 東	茨城 3 7	無し	2004 茨城民族学会
	栃木 6 4 ①	「桃太郎」(参考)	2004 下野民族研究会
	群馬 5 0 ②	「ぬかぼことこめぼこ」継子のぬかボコは遅くまで働かされ、鬼の家で老婆さんに匿われる。太郎、次郎という鬼をごまかし土産に願いの叶う「えんめい小袋」をもらう。小袋に頼み、仕事を片付け着飾り芝居に行く。ぬかぼこは立派な若者と結婚するが、嫁に行けなかったこめぼこは仕方なく母親に白に乗せられ挽かれてしまった。 「鬼と長いも」白根山と四阿山に住む鬼は悪さばかりしていた。5月の節句に村男が妻に長芋を摺ってとろろ汁を言い付ける。鬼はそれを見て自分の角を折り摺り下ろそうとするが、固くて出来ない。上手そうにとろろ汁を食べる夫婦を見、鬼は自分を食べられては大変と山から居なくなった。それから長芋は鬼払いと言って、良く作られるようになったという。	2005 群馬のむかし話研究会
	埼玉 3 5	「鬼と神力坊」秩父から鬼が来て、酒と食べ物をねだる。神力坊という山伏が百石の豆腐、竹根の筍のとんちで鬼を追い	2005 埼玉県国語教育研究会

①	払う。	
千葉 47 ⑤	<p>「地蔵にだんご」嘉平が転がした団子を食べた地蔵は、自分に隠れて夜を待てと言う。夜に、角が1本や2本の青鬼や赤鬼が集まり小判を数えだした。地蔵に鶏の鳴き真似を促され嘉平が3回真似ると、鬼は3番鶏が鳴いたと小判をおいて逃げた。小判を得た嘉平の話で隣の爺も真似るが、嬉しくて笑ってしまい鬼にひどい目にあわされた。</p> <p>「鬼女」海が大しけの夕方、与兵衛が神宮寺に出かけた。河で赤ん坊を負った女が、洗い物をしている。赤ん坊があまりで泣くので注意すると、抱いてあやしてくれという。与兵衛があやして顔をのぞくと馬の顔をした赤ん坊であった。思わず川に放ると赤ん坊が泣き、母親が振り返った。毛を長く垂らし、目はつり上がり、口は耳まで裂け、真っ赤な血の付いた唇のそれから三日三晩熱を出したそうだ。</p> <p>「おどけ鬼の子」孫娘を鬼にさらわれた老夫婦が、山奥で男の子に会う。男の子は鬼と孫娘の子どもであった。母子と老夫婦は翌日逃げ出すが、鬼が追ってくる。沼を千里船に乗って渡ると、鬼が沼の水を仲間と飲み干そうとしている。男の子が母に鶏の真似をしると言われてすると、鬼は笑い出して飲んだ水をはき出したので逃げる事が出来た。</p> <p>「かまいたち」若者が江戸で稼ごうと、夜山に通るかかると家があった。そこに鬼が来て話し出し、怖い物はかまいたちという。そこで、若者が「かまいたち」と大声で叫ぶと鬼は逃げていき、若者は名主の娘婿になって幸せに暮らしたそうだ。</p> <p>「千葉わらい」鬼やひょっとこ面を被り本人不明で、1年に一度本音を言う日があった。出かけた殿様は、自分の悪口を言われ怒るが誰も殿さまと思ってくれなかった。</p>	2005「千葉のむかし話」編集委員会
東京 54 ②	<p>「桃太郎」(参考)</p> <p>「鬼の金六」日本橋の橋番人に、金六という怖い顔の男がいた。厳しく仕事をしたので、鬼の金六と呼ばれていた。ある日大名行列が日本橋に通るかかると、橋は大火で焼け落ち仮の橋で籠や馬は通れない。あくまで通らせない金六に、大名</p>	2004 東京むかし話の会

		の横車に辟易していた人々から大変な人気者になったそう な。	
	神奈川 68	無し	2004 相模民族学 会
北 陸	新潟 41 ③	「鬼の田植え」夜のうちに田植えを手伝う鬼が、朝人間に見 つかり慌てて岩に顔をぶつけて青鬼になった。(良い鬼もい る。それからは節分には「鬼は内」というようになったとい う) 「サバウリと鬼ばさ」(「牛方と山姥」に同じ)	2005 新潟県小学 校図書館協議会
	富山 66 ①	「桃太郎」(参考)	2005 富山県児童 文学研究会
	石川 39	無し	2005 石川県児童 文化研究会
	福井 63	無し	2005 福井県民話 研究会
中 部	山梨 34 ①	「継子の幸せ」継娘は穴あき袋で栗拾いに行かされ(実娘の 妹は帰るが)姉は日暮れて山の家に泊まり、お婆さんに鬼か らかくまってもらい、鶏の声で鬼は逃げる。娘二人は殿様に もらわれるが姉は妻、妹は下女であった。(気だての良い娘は 幸せになる)	2004 山梨国語教 育研究会
	長野 46 ①	「食わずにようぼう」ケちな男は米をため込むが、結婚して からよく米が減る。そっと見ると、女房が頭の中の口で食べ る食べる。男が離婚を言うと、「見たな」と鬼婆に代わり男 をさらって子どもに食べさせようとする。男は鬼婆の苦手な ヨモギや菖蒲のある所を助かる。	2005 長野県国語 教育学会
	岐阜 59 ①	「オニとツバキの花」飛弾の薬売りが山で娘に一夜を頼むと 鬼の家であった。人間が来るとツバキが赤い花になると言う 鬼を誤魔化し、しびれ薬を酒に入れ娘と薬売りは逃げる。	2004 岐阜県児童 文学研究会
	静岡 58 ①	「鬼鉄砲」足形(富士宮市)の治平は鉄砲名人だ。丸木橋に 陣取る赤鬼を鉄砲で打つと、鬼は川に落ち「腹が痛てえ。薬 くれ。」と言うので、「上の原っばでこの薬を付けて、火をつ ける。」と、火薬を渡した。ドカーンと音がして、鬼は肉も骨	2004 昔話研究会

		も吹っ飛んだ。	
	愛知 5 1	無し	2006 愛知昔話の 会
	三重 5 3	カミナリ	2004 三重県小学 校国語教育研究 会
関 西	滋賀 5 4	無し	2004 滋賀県小学 校教育研究会国 語部会
	京都 3 9 ②	<p>「一寸法師」小さく生まれた一寸法師は、都の姫の家来となる。町で鬼に出会い、鬼の腹に飛び込み針の刀で刺して鬼を降参させる。打ち出の小槌出大きくなった一寸法師は、姫と結婚する。</p> <p>「大江山の鬼退治」酒呑童子という鬼は、16 ヶ月胎児として生まれ、赤い髪で歯があり生まれて直ぐに走り回った。手下には、茨木童子、熊童子、虎熊童子、石熊童子がいたが、源氏の頼国が勝栗と鬼つぶしの酒で酔いつぶして退治した。</p> <p>「あの鬼こわい」京の三条の薬屋が家普請をし、大江山の鬼も負けるような瓦を詠えたところ、向かいの家の嫁が怖くて病気になった。医者が家に鍾馗の瓦を乗せたら病気は治った。</p>	2005 京都の昔話 研究会
	大阪 5 9 ①	「一寸法師」（他に同じ）	2005 大阪府小学 校国語科教育研 究会 「大阪の昔話」編 集委員会
	兵庫 5 4 ②	<p>「鬼の面」むすめが鬼の面を持ち夜道を行くと、泥棒が酒盛りをしていた。むすめが鬼の面を被ると泥棒はビックリして逃げ、後に小判が残された。</p> <p>「馬吉と鬼ばばあ」（「牛方と山姥」を馬と大根にしたもの）</p>	2004 兵庫県小学校国 語教育連盟
	奈良 5 9 ②	<p>「鬼と炒り豆」島根と類似の内容。娘は豆をまきながら鬼と山へ入る。やがて生まれた孫は豆を鬼に投げて角を折り、訪ねてきた祖父を救う。</p> <p>「地獄めぐり」（「地獄のそうべえ」に同じ）</p>	2004 奈良の昔話 研究会

	和歌 山 6 5	無し	2004 和歌山県小 学校教育研究会 国語部会
中 国	鳥取 5 9	無し	2005 鳥取県小学 校国語教育研究 会
	島根 4 7 ②	「とんでにげた鬼」赤鬼が雨を降らせるのと交換に娘をもら うが、娘に黒豆をぶつけられて逃げられる。 「おにの面」娘は奉公先に母親の面を持っていたが、親方に 鬼の面に変えられる。里に帰る途中鬼に捕まえられるが、焚 き火の煙を避けてむすめが鬼の面を被ると、鬼は驚きお金を おいて逃げた。	2005 島根県国語 教育研究会
	岡山 3 0 ②	「桃太郎」(参考) 「鬼の手形岩」遥照山の鬼が岩を投げて遊んでいて道の真ん 中に落ちた。村人が困っているのを聞いて元に戻そうと何度 も投げてやっと戻したが、その岩には鬼の手の形がついてい た。 「鬼を笑わせたばあさん」団子をばあさんが転がし拾った鬼 が食べた。あまりに美味しかったのでばあさんにずっと料理 させ家に帰さなかった。ある日、ばあさんは米が増える大し ゃもじをもって逃げ出した。川があり大しゃもじを浮かせて 乗ると、鬼が川の水を飲み干そうとしている。ばあさんは尻 をまくり大きな屁をした。鬼は笑って川の水を吐き出し、ば あさんは無事に帰れた。	2004 岡山県小学 校国語教育研究 会
	広島 4 5	無し	2004 広島県学校 図書館協議会
	山口 4 0 ①	「鬼彦兵衛」値からはあるが気弱な彦兵衛が熊野へ行って修 行し、村人を助けるようになり鬼彦兵衛といわれるようにな った。(鬼というのは、特別な力を持った人という意味です)	2004 山口県小学 校教育研究会国 語部
四 国	徳島 6 2 ③	「地獄もどしの三人」(「地獄のそうべえ」に同じ) 「慈光寺のおに」徳島市の福島に慈光寺があり、大勢の修行 僧がいた。その中に僧が二人「飯銭も要らず、極楽じゃ。」と 乱暴ばかり働いた。ある晩、佐生で喉が渇き庭の緯度で水を 汲むと、中から鬼が「飯銭、もどせ」と追いかけた。二人は逃	2006「徳島のむか し話」編集委員会

		げだし,それから慈光寺に不届きな僧は苦無くなったそう だ。	
	香川 6 3 ①	「桃太郎と仕返し鬼」宝をとられた鬼は仕返しに来るが,里 人に加勢され,桃太郎を迎え,打ち勝つ。(勝賀山と名付けた)	2005 香川県国語 教育研究会
	愛媛 5 6	無し	2004 愛媛県教育 研究協議会国語 委員会
	高知 4 1 ①	「双名島の鬼」瀬戸内の鬼ヶ島に鬼立ちが集まり,力比べを した。青鬼の力に脅威をもった赤鬼の大将が,久礼の浜に外 海の波を防ぐ島を二つの岩に鉄棒を通して運んでくれと路 頼む。青鬼は久礼に島を作るときには力尽きていた。泣きす がる子鬼をやっと浜へ投げて,青鬼は海に沈んでいった。	2005 土佐教育研 究会
	福岡 4 0 ②	「鬼の石運び」久留米の高良山に大勢の鬼が住み暴れていた。 大明神は竹内宿弥(すくね)に鬼退治を命ずる。宿弥は鬼 に一晩で高根山の周囲を石で囲えたら高良山に住んで良い という。鬼が成し遂げそうになると,宿根は鶏の鳴き真似を して鬼を追い払う。 「平尾台の鬼」赤鬼親分へ人間の子どもを送ろうと「聞く鼻」 「見る鼻」の2匹の鬼は,腐った鯛の臭いと爆竹の音に退散 する。権現様の知恵のお陰であった。	2005 福岡県民話 研究会
九 州 ・ 沖 縄	佐賀 4 6 ①	「鬼の鼻」白鬼と赤鬼が二人で山を作るが,鶏の鳴き声で中 断した。その山の名前を鬼の鼻という。	2005 佐賀県小学 校教育研究会国 語部会
	長崎 5 0 ④	「鬼に飲まれたでえどんたち(「地獄のそうべえ」に同じ) 「夢見小僧」貧しい与兵衛が夢を見たが誰にも云わない。殿 様も聞きたがるが言わずに,鬼ヶ島に流される。鬼も聞きた がり病気が治る赤玉と自由に飛べる団扇をくれる。団扇で村 へ行き,長者の娘を赤玉で治し婿となる。 「五分五郎」小さな五分太郎は針の刀を持ち,魚に飲まれて 漁師の家に来る。夜に鬼が来ると,五分五郎は鬼の鼻に飛び 込み針で刺して鬼は死ぬ。別の日,遊びに出た五分五郎は鬼 の子の相撲を見て大声を出す。やっと五郎を見つけて食べよ うとするが,神だという五郎を鬼は神棚に祭る。鬼が出かけ	2005 長崎県小学 校教育研究会国 語部

	<p>た好きに鬼の宝を取って帰った。</p> <p>「眼鏡岩」 鬼が石盛丘に肘をかけ, 前山に足を掛けて寝ていた。鳥が鼻に入り, クシャミをしたとたん足で岩を突いて穴が空いた。それが, 佐世保の眼鏡岩になった。</p> <p>「泣く浜」 多良岳の鬼は悪いことばかりするので多良神社の権現が叱り, 朝までに神社の石門を作らないと追い出すと命ずる。鬼が完成しそうになると鶏の鳴き真似をして, 鬼は浜にオーイと泣いて去ったという。</p>	
<p>熊本 38 ④</p>	<p>「ねこ岳のはなし」 阿蘇大明神は子どものたか岳, なか岳, えぼし岳, きしま岳, ねこ岳の5人の息子をおいて出かけた。残った兄弟は背比べをはじめ, ねこ岳は祖母山の鬼に領地を約束して土を毎晩運ばせ1番背が高くなった。阿蘇大明神は訳を知り, 頭を散々たたいたのでねこ岳の頭がでこぼこになった。</p> <p>「鬼の足かた」 暴れ者の鬼は太一を食べようとする。太一はゆるぎ岳の天辺から飛び降りたら食べられるという。鬼は鉄の高下駄を履いて飛ぶが, 片方が脱げ岩に足を打ち付け去る。岩には鬼の足かたが残った。</p> <p>「医者どんと山法師と軽業師」(「地獄のそうべえ」に同じ)</p> <p>「鬼が笑った話」 福田寺にいる鬼はよく働くがよく食べ, 他の人の分が無くなる。そこで, 鍋に孟宗竹を入れ鬼が食べると歯が折れて痛くて泣き出す。来年になると良い歯がまた生えてくると言う, 鬼がはじめて笑った。ここから, 来年のことを言うと鬼が笑うと言うようになった。</p>	<p>2004 熊本県小学校教育研究会国語部会</p>
<p>大分 45</p>	<p>無し</p>	<p>2004 大分県小学校国語教育研究会</p>
<p>宮崎 37</p>	<p>無し</p>	<p>2005 宮崎県民話研究会</p>
<p>鹿児島 38</p>	<p>無し</p>	<p>2005 鹿児島島のむかし話研究会・県小学校教育研究会国語部会</p>

沖縄 6 2	無し		2005 沖縄昔の会
話の総数		2 3 3 4	鬼の話の総数 5 7

(参考)

- * 「地獄のそうべえ」鍛冶屋と医者と山伏が地獄見物に出かけ、それぞれの特技で鬼を懲らしめ、とうとう鬼に「地獄から帰ってくれ」と言わせる。
- * 「三枚のお札」和尚から三枚のお札をもらった小僧が、山に行く。山姥（ここでは鬼婆）に食べられそうになるが、三枚のお札の不思議な力で逃げる事ができた。
- * 「牛方と山姥」牛にサバを運ばせていた牛方は、山姥（ここでは鬼婆）にサバと牛を食われる。牛方も食べられそうになるが、とんちで山姥を退治する。

「読みがたり」の総話数が2334である中で“鬼”の話の総数は57であり、全体に占める割合は約2.4%と多くはなかった。しかも、同じ話が日本の複数の地域に伝えられている。(参考)としてあげた「地獄のそうべえ」(宮城県, 奈良県, 徳島県, 長崎県, 熊本県), 「三枚のお札」(青森県, 宮城県, 山形県), 「牛方と山姥」(新潟県, 兵庫県)の他にも, 「一寸法師」(京都府, 大阪府)「桃太郎」(栃木県, 富山県, 東京都, 岡山県, 香川県)等がある。

こうした場合, 話の大筋は同じであっても, 地域によって題名や登場するものが異なっている場合があるのは, 表1に見るとおりである。

(2) “鬼”の性別と話の結末

① “鬼”の性別

「読みがたり」に登場する“鬼”の話の57話について“鬼”の性別を調べた。“鬼”の象徴としての, 「1本または2本の角」「毛むくじゃらの体」「虎の皮のふんどし」「赤や青, 黒の顔」などは, どれも男性を意識させるものである。しかし, 今回「読みがたり」の中には, 少数ながらも女性の“鬼”が登場している。しかも, 全て「鬼ばばあ」「鬼ばんば」「鬼ばさ」などと記述されており, 老齢であるとされているのが特徴である。男性が“鬼”である場合には, 年齢についての表現はなく, 全て“鬼”と記述されている。こうしたことから, “鬼”の性別は年齢と関係している可能性も考えられる。また, こうしたことから性別と話の結末とに関連性はないであろうか。また, 関連しているとすれば, どのような形で関連しているのであろうか。こうした視点を持って「読みがたり」に登場する“鬼”の性別について調べた。

“鬼”の性別をはっきりと把握するには, “鬼”自身が話の中に登場していなければならない。そのうえで, “鬼”が話の結末にどのように影響を及ぼしていることを確認していく必要がある。従って, 鬼瓦や鬼の面, 名前などの間接的な登場のみで“鬼”自体は登場しない6話(「千葉笑い」「鬼の

金六」「あの鬼こわい」「鬼の面」「おにの面」「鬼彦兵衛)は、この性別対象からは除外することとする。その結果、図1にあるように話の中の“鬼”が男性であったのは44話であるのに対して、“鬼”が女性であったのは僅か7話であった。

“鬼”の姿に持つ通常のイメージは、「恐ろしい形相である」「体が大きく、とてつもなく力が強い」「毛むくじゃらである」「頭に1本または2本の角がある」「体の色は赤、青、黒などがある」「上半身裸に、虎の毛皮を腰に巻いている」といった、いかにも男性的なものであるとおり「“鬼”とは男性である場合が多い」という結果となった。少数ながら女性の“鬼”が全て老女であり、若い女性の鬼は登場していない理由の一つに、女性も老齢になると鬼のような姿(恐ろしい)になると見たのであろうか。

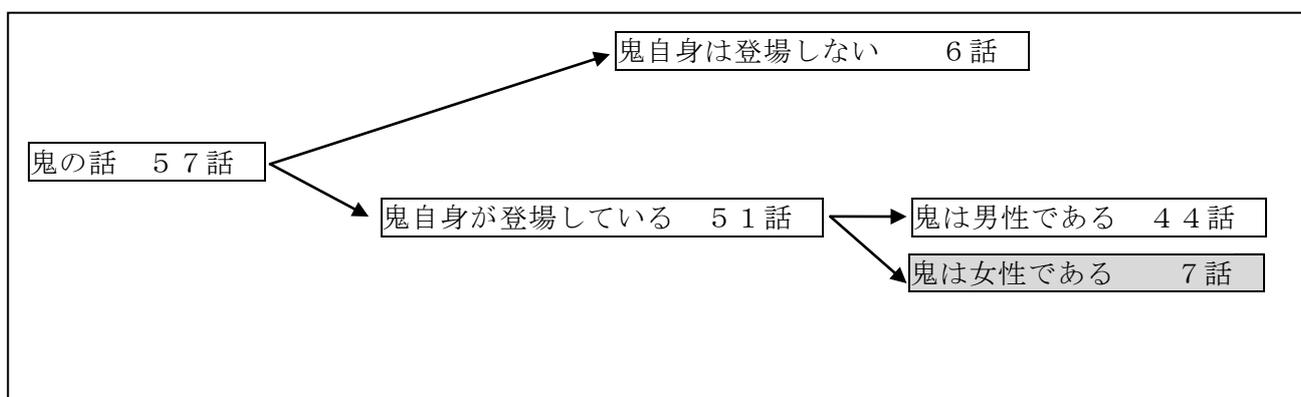


図1 「読みがたり」の鬼の性別話数 (鬼は女性である “鬼”が女性である話)

② “鬼”の話の結末

“鬼”自身が話の中に登場している51話の“鬼”の話の結末は、大きく分けて「鬼が退治された」(42話)と「鬼は退治されない」(9話)となった。さらに、「鬼が退治された」(42話)場合の結末は「闘いに負けた」(20話)「騙された・はぐらかされた」(15話)「殺された」(7話)と分けることが出来た。

「鬼が退治された」は、対人間との関係の中で、いずれの場合も“鬼”の望みは叶うことはなく命・宝物・娘・子ども(息子)・住む場所などの大切なものを失う結末となっている。

「鬼は退治されない」においては、鬼が人間を手助けした話(「鬼の田植え」「慈光寺の鬼」)、岩の形や地形のいわれ(「ばけものとチョウザメのかくとう」「鬼の手形岩」「眼鏡岩」)、鬼と鬼の話(「双名島の鬼」「鬼の鼻」)、赤ん坊の泣き声を注意した男が鬼女の顔を見て熱を出した話(「鬼女」)の9話と少ない。

上記の方法で、“鬼”の話の結末を性別と合わせて作品名で分類したものが、表2である。この表2では、話の概要が同じで、題名が異なるものは分かりやすい代表的な題名でまとめた。

表2 “鬼” の話の結末

(“鬼” が女性である話)

鬼は退治されない 9話

「鬼の田植え」「慈光寺の鬼」「大三の鬼たいじ」「鬼の手形岩」「眼鏡岩」「双名島の鬼」
 「ばけものとチョウザメのかくとう」「鬼の鼻」「鬼女」

鬼が退治された 42話闘いに負けた 20話

「一寸法師」(2話)「桃太郎」(4話)「地獄のそうべえ」(5話)「おどけ鬼の子」「鬼岩」
 「鬼と炒り豆」「鬼を笑わせたばあさん」「鬼の足かた」「喰わず女房」「馬吉と鬼ばあ」
 「三枚のお札と鬼ばんば」(2話)

だまされた 15話

「オニとツバキの花」「かまいたち」「地蔵にだんご」「鬼と神通力」「鬼と長いも」
 「継子の幸せ」「ぬかぼこと米ぼこ」「下北むがしっこ」「大工と鬼六」「とんでにげた鬼」
 「鬼の石はこび」「夢見小僧」「泣く浜」「ねこ岳のはなし」「鬼が笑った話」

殺された 7話

「桃太郎と仕返し鬼」「五部五郎」「酒呑童子」(2話)「鬼鉄砲」「たんこと鬼婆」
 「サバウリと鬼ばさ」

総話数51の中で、“鬼”が退治される話は42話を占め、退治されない話9話の約4.7倍もある。人間側は圧倒的な数と時間をもつ体制側であり、“鬼”は居場所を持たない異端のマイノリティーな存在である。“鬼”の対人間との闘いは、常に人間側の勝利で終わっている。また、性別においては、ほとんどの分類で男性の“鬼”の話が占めているが、だまされた話では女性の“鬼”は0話であることが際立つ。“鬼”においても、男性は騙されるが女性は騙されないということであるようだ。

③ 退治される“鬼”

「退治された」の中では、闘いに負けた20話が最も多い。“鬼”の強い力により一時的に勝利を得ても、犬や猿、雉の加勢を伴い(「桃太郎」)、医者・山伏・鍛冶屋でチームを組み(「地獄のそうべえ」)、小さな体で奇襲作戦をとり(「一寸法師」)、ついに“鬼”は闘いに負ける。

人里での生活を諦め山奥で暮らしていても、妻を取り戻しに来た人間に負けてしまう。何より悲しいのは、自分の子ども(なぜか息子である)にまで裏切られるのである。(「おどけ鬼の子」「鬼の炒り豆」)“鬼”の息子は、父親から逃れ母親と共に人間の世界で生きることを選択するのである。「鬼の炒り豆」では、息子は父親が苦手な炒り豆を投げ付ける。「おどけ鬼の子」では、息子は父親におど

けて見せて笑わせる。鬼は笑うことで、飲み干そうとした川の水を吐き出し、母子は逃げ切ることができる。“鬼”は、息子のおどけが本当に面白くて笑ったのであろうか。息子の気持ちを知った上で、息子の願いを聞き入れてやろうとした“鬼”心の泣き笑いとも解釈できないであろうか。

次に多いのが、だまされた15話である。人間に仲間として認めてもらおう、住む場所を与えてもらおうと、“鬼”は持てる強い力を活かして、橋をかけたり、岩を運んだりする。しかし、常に鶏の鳴き真似などで騙される（「地蔵にだんご」「継子の幸せ」「鬼の石運び」）。この他にも、取引として完全に約束を守ったにも関わらず、豆をぶつけて逃げてしまう。（「とんで逃げた鬼」）いずれも、“鬼”との約束は、対等なものとはされずに守られることはなかった。

“鬼”は、知力が劣っていて簡単に騙される存在としても表現される。（「長いもと鬼」「かまいたち」「鬼が笑った話」「下北むがしっこ」「オニとツバキの花」）「下北むがしっこ」では、“鬼”の食事を減らすために固い孟宗竹を食べさせて、歯が折れて泣く鬼に「来年になれば、また生えてくる」と、無責任に言う。来年への希望を与えられ、鬼はやっと笑うことができる。この話から「来年のことを言うと鬼が笑う」と言われるようになったという。つまり、来年のことなど信用できないということでもある。「オニとツバキの花」では、共に暮らす娘に「あなたの子どもがお腹にいる。」と騙され、祝い酒にしびれ薬を盛った娘は薬売りとして逃げる。「やっと家族を持てる」と、狂喜したであろう“鬼”の気持ちを逆手にとった見事な騙しぶりである。娘の立場から見れば、人間社会に戻れる稀な機会である。どんなことをしてでも、逃げたい思いは容易に理解できる。悪いのは、最初に娘をさらってきた“鬼”である。正義は、人間側にあるのだ。

最も厳しい結末は殺された7話である。「殺す」結末には、それだけの理由が求められる。“鬼”は、こんなにも悪さをする。人間が被害を食い止めるには、もう“鬼”にいなくなってもらうしかない。「いなくなる」究極の方法は「死んでもらう」（殺す）ことである。殺される“鬼”の話は、子どもに理解できる理論と言葉で語られてきた。「こんなに小さな体では、普通に戦うなんて無理だろう」（五部五郎）「勝負は着いたはずなのに、また挑んできたのだ」（桃太郎と仕返し鬼）「子どもの生き血を吸って生きてきたのだ。このままでは、子どもの命がどんどん失われてしまう。」（酒てん童子）「大江山の鬼退治」“鬼”が死ぬことで、話のつじつまが合う場合もある。（「鬼鉄砲」火薬で鬼の体は木端微塵となった。「桃太郎と仕返し鬼」鬼の亡骸の上に松を植え、その時の山は勝賀山と名付けられた。）“鬼”には殺されるだけの理由があったのだと、「読みがたり」は説得している。

④ 女性の“鬼”

女性の“鬼”は、「たんこと鬼婆」（「三枚のお札」に同じ。川の水を飲み、腹が破裂して死ぬ。）「サバウリと鬼ばさ」（「牛方と山姥」に同じ。頭の手ぬぐいで2本の角を隠しており、火傷をおって死ぬ。）の2話で殺されている。殺される結末は、男性が“鬼”の話では約11%であるのに対し、女性が“鬼”の話では約29%となっている。昔の日本では、力が弱く農作業に役立たない女子から口減らしにあったという。男子は、家を継ぐ大切な存在であった。そうした男尊女卑から、“鬼”も女性が殺される割合が高くなったのであろうか。

口減らしは、もともと子どもに対して行われたことである。「読みがたり」に女性の“鬼”は登場していても、子どもの“鬼”は登場していない。子どもの力も、女性と同じく強いとはいえない。しかし、男女を問わず、子どもとは皆愛らしさを持っているものである。愛らしく弱弱しいものを、“鬼”とは呼ばない。ここに、若い女性の“鬼”もいない理由があるのではないか。女性が老齢となり、何らかの理由で村社会から外れて生きる時に、女性の“鬼”が誕生したと考えられないであろうか。

女性は、一般的に男性に比べ力は弱い。老齢ともなれば、一層その傾向は増すはずである。ここに一つの考えが浮かんでくる。人間社会にとって「“鬼”は、殺されて消滅すべき存在」であったのではないか。もともとの昔話では、“鬼”はもっと多く死ぬ結末となっていたのではないかと考えられる。

⑤ 「日本昔話大成」^{50・51・52}に見る“鬼”の結末

「日本昔話大成」は、昔話の収録と分類では一定の評価を得ているといえる。その中で、より広く知られた“鬼”の話を男女それぞれにあげて、結末がどのようなものであったかを調べた。“鬼”の話の結末は、退治されたというものが最も多いことは予想できるが、その中で殺された結末に特に注目したい。「読みがたり」では、殺された結末が最少となっている。これは、もともとの昔話の結末もそうであったのであろうか。結末の取り上げ方には、子どもへの教育的な活用を考えての配慮が加えられている可能性も考えられる。「日本昔話大成」からは、広く一般的に知られている“鬼”の話を取り上げて殺された結末を調べた。

男性の“鬼”の話には「桃太郎」「一寸法師」「酒吞童子」を、女性の“鬼”の話には「三枚のお札」「牛方と山姥」「喰わず女房」を、それぞれ三点ずつ取り上げた。

「日本昔話大成」^{50・51・52}からは、各話で鬼の結末に係る部分のみを抜き出し殺された結末と思われる部分には下線を引いた。さらに、その話の地域も記しているが、複数の同様の結末はまとめて県名のみをあげている。

また、地方独特の話となっていて「読みがたり」とは内容がかけ離れている話は割愛した。

(例：「桃の子太郎」(徳島県三好郡) 爺と婆と桃太郎が住んでいるが、桃太郎は遊んでばかりいる。爺に仕事をするように言われ山に行くが、木の切り方を知らない。木を根元から抜いて来て家に立てかけると、家は潰れて爺はめしぞうげに、婆は雑炊鍋に首を突っ込んで死ぬ。)

◎ 「桃太郎」 1 4 3 桃の子太郎 (cf. AT513A)

「わりいこどしねがら命ばりは助けてやる。」(青森県三戸郡)

「鬼を退治・鬼征伐・鬼が降参」(鹿児島県、愛媛県、香川県、福島県、東京都、岡山県、佐賀県、山形県、青森県、岩手県宮城県、) (埼玉県、石川県、新潟県、他)

「鬼を殺して宝物を奪って帰り」(島根県隠岐郡)

「鬼は首を取られる」(秋田県)

◎「一寸法師」(「五部次郎」) 136A 一寸法師・鬼征伐型

「化け物死んでしまったどは」(山県最上郡)

「大将鬼はひっくり返って死ぬ」(鹿児島)

「赤鬼青鬼…縛って連れて帰る。天井につるしておくで、翌日は金や宝物が山のように」(佐賀)

◎「毘沙門様の授かり子」 136B 一寸法師・聳入型 (AT700)

「針で刺し…鬼どもは変化もんじゃとひったまげて、逃げ出して行っただけな」(宮崎西都市)

(福岡, 岡山, 鳥取, 新潟, 群馬,)

◎「酒呑童子」 本格新話型 21 酒呑童子 (AT780A)

「追われて丹波の山に行く」(新潟南蒲原郡)

「鬼面が取れなくなり…酔って鬼になって寝てしまう。頼朝が…首を落とす」(長野)

◎「三枚のお札」(「三枚の護符」) 240 三枚の護符 (cf. AT313)

「婆はさまって、べっちょりとつぶれてしまたどす」(岩手北上市)

「(鬼である母親は)落ちて死ぬ」(鹿児島)

「和尚は経で鬼を退治する」「鬼が溺れて、(他の)二人は助かる」(岐阜)

「婆は経を熱心に読む和尚に諦めて帰る」(山梨)

「鬼婆は井戸に落ちて死ぬ」(新潟, 群馬,)

「鬼婆から逃げた」(新潟, 山形, 宮城)

「小僧が鬼婆に食べられる」(新潟)

「鬼はヨモギと菖蒲を避け、逃げていった」(栃木, 福島, 山形)

「札で出した火で鬼婆は焼け死ぬ」「鬼は経で弱って倒れた」「鬼婆は改心して信心した」(福島)

「鬼婆は(餅に挟んで) 食べられた」(山形, 岩手, 富山, 青森)

「鬼婆を食べるが、屁と共に逃げた」(秋田)

「鬼婆はお札で出した水に溺れて死ぬ」(宮城)

「鬼婆は大釜で焚かれ殺される」(青森)

◎「牛方と山姥」(「馬子と鬼婆」) 243 牛方山姥 (AT1121. Mot, G513)

「とうとう死んだげな」(広島山県郡)

「鬼は菖蒲臭いと逃げる」「鬼は苦しがつて、いろいろな虫になる」(鹿児島)

「煮殺してみると鬼婆であった」(大分, 熊本, 富山, 新潟, 茨城, 福島, 青森)

「鬼婆は焼け死ぬ」(香川, 徳島, 広島, 鳥取, 山梨, 岐阜, 福島, 青森)

「鬼婆は取った塩を返すから許してくれという」(岡山)

「鬼婆を焚き殺して釜の中を見ると狸である」(兵庫)

「(鬼婆は) 熱湯を注がれて往生する」「(鬼婆を) 煮殺してのふたを開けると猫が死んでいた」
(新潟県)

「鬼婆は腹いっぱいなのですぐに(沼に)沈む」(山形県)

「鬼婆は、その通りにして海に落ちて死ぬ」(青森県)

◎「食わず女房(鬼むかし)」

244 食わず女房(ATT1458. Mot. K1984. 2) (zf. AT1373. Mot. S411. 4. AT1407)

「(鬼か蛇かなにかかにがださげ)(蓬と菖蒲に)食いかねで、消えたもんですけど」(山形県新庄市)

「女房を見ると角が2本ある。男は、裏白、ゆずる、竹に隠れると…逃がしたと帰る。」(沖縄県)

「鬼婆は菖蒲に…山奥に逃げていく。」(宮崎県, 熊本県, 長野県, 山梨県, 富山県, 新潟県, 埼玉県, 福島県, 山形県, 宮城県, 岩手県, 青森県)

「男は木の枝に取り付いて助かる。女は酒呑童子の鬼だった。」(愛媛県)

「鬼女は毒(蓬と菖蒲)にかかって死ぬ。」(広島県)

男性が“鬼”の話「桃太郎」「一寸法師」「酒呑童子」のいずれも、もともと殺すという結末は少なく、退治して終わる場合がほとんどであった。

それに比べて、女性が“鬼”の話「三枚のお札」「牛方と山姥」「食わず女房」では、“鬼”が殺される結末はかなり多くなっていると言える。殺され方も男性が“鬼”の場合は「首を落とす」「ひっくり返って死ぬ」などであるが、女性の“鬼”が殺される場合では「つぶれて」「溺れて」「落ちて死ぬ」「煮殺す(焚き殺す)」「焼け死ぬ」「(餅に挟んで)食べられた」「(沼に)沈む」「(閉じ込めて)熱湯を注ぐ」「毒で死ぬ」など、具体的で残酷なイメージである。特に「食わず女房」では、“鬼”と明記された話より山姥や「蜘蛛の化け物」として殺されている話の方が多い。そして、そのほとんどが、蜘蛛の殺し方である熱湯をかけられて殺されている。『夜の蜘蛛は親でも殺せ』とは、この話から言われるようになったという。同じ“鬼”であっても、性別によって結末はこのように大きく異なっていたのである。

3 子どもに伝える“鬼”の話

21世紀の子どもに「読みがたり」は、読み、語られるものである。その中で、“鬼”の話は、どのように子どもに伝えられるのであろうか。

(1) “鬼”を退治する正当性

〇〇岩の形の言い伝えや山の名前の謂れに、“鬼”が関わっていた話などがある。また、「桃太郎」のように、全国で伝承されている有名な話もある。“鬼”が退治される話が多いが、その理由が差別やいじめであってはならない。子どもに理解できる、“鬼”が退治されるべき正当な理由がなくてはならない。そうしたことから、話には必ず「鬼が村で悪さばかりしていたので、村人は困っていた。」という文章が入っている。これは『“鬼”は退治されたが、悪さをしなければ

退治されることはなかったのだ。』(だから、みんなも悪いことをしないようにしようね) という理論となる。退治の方法も、「鬼」との闘いに勝って宝物を得た。(取り戻した)ことは、何ら問題とはならない。「騙す」ことも、面白おかしく脚色した話の根底に、もともとさらわれていた娘を取り戻したり、「悪い鬼」を人里から追い払うためには仕方のないことであったという理由がある。

「殺す」については、もともとの話と比較すれば、影響を最小限にするように配慮されていることが分かる。話そのものが殺されたことになっていて変えることのできない「酒呑童子」、死ぬことで話のつじつまが合う「鬼鉄砲」(火薬で鬼の体は木端微塵となった。)
「桃太郎と仕返し鬼」(鬼の亡骸の上に松を植え、その時の山は勝賀山と名付けられた。)の他は、おそらく地方でその結末がよく知られていて、いまさら異なる結末とすることはできなかつたのではないであろうか。

こうして、「鬼」の話は、子どもの心に受け止められる許容量に細心の注意を払いながら、収録されていったのであろう。

(2) 子どもが“鬼”を読む力

いかに子どもであろうと、読み込んでいくうちに“鬼”の話の裏側にあることに気付いていくことは十分に考えられる。『なぜ、“鬼”は山奥にしか住めなかつたのか』『“鬼”はどうして盗んだり、さらったりしたのか』『なぜ、彼らは“鬼”と呼ばれたのか』『男女で“鬼”の話は、なぜこんなにも結末が異なっているのか』と、疑問を持つようになる。そもそも、読書の目標にはそうしたものが含まれている。書いてある事柄をそのまま受け止めるだけでなく、自分の頭で今一度考え確かめる習慣を身につけていくことにある。

人が生きていく上で、活かせる読書へと発展させるのに「読みがたり」の中の“鬼”の話は教育的効果を持つものである。

4 おわりに

昔話に、性別は話の筋を決める大切な要素であった。女性は、母性豊かで優しく、そして美しくあってほしい存在であった。そして、男性は女性を守る強くたくましく頼りがいのある存在であることを期待されていた。また、期待に添わない存在であった場合には、生活の場を奪われ追われる、迫害を受ける、殺される可能性があることを伝えている。

そうしたことは、“鬼”の話の中においても同様であった。すなわち、その時代の性別による差異や差別は、そのまま“鬼”の話に投影されていたのである。“鬼”の性別による結末は、そのまま“人間”の性別の結末でもあった。

教育の場で、“鬼”の話を楽しませながら、性別も含めた自身の生き方に考えを深めていくように活用していく意義は大きいと考える。

注・引用文献・参考文献

- 1) 北海道むかし話研究会・北海道学校図書館協会：読みがたり「北海道のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 2) 青森県小学校国語研究会：読みがたり「青森のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 3) 岩手県小学校国語教育研究会：読みがたり「岩手のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 4) 「宮城の昔話」刊行委員会：読みがたり「宮城のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 5) 秋田県国語教育研究会・県学校図書館協会：読みがたり「秋田のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 6) とんと昔の会・山形県国語教育研究会：読みがたり「山形のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 7) 福島県国語教育研究会：読みがたり「福島のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 8) 茨城民族学会：読みがたり「茨城のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 9) 下野民族研究会：読みがたり「栃木のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 10) 群馬のむかし話研究会：読みがたり「群馬のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 11) 埼玉県国語教育研究会：読みがたり「埼玉のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 12) 「千葉のむかし話」編集委員会：読みがたり「千葉のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 13) 東京むかし話の会：読みがたり「東京のむかし話日本標準 郷土文化研究室」2004
- 14) 相模民族学会：読みがたり「神奈川のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 15) 新潟県小学校図書館協議会：読みがたり「新潟のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 16) 富山県児童文学研究会：読みがたり「富山のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 17) 石川県児童文化研究会：読みがたり「石川のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 18) 福井県民話研究会：読みがたり「福井のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 19) 山梨県国語教育研究会：読みがたり「山梨のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 20) 長野県国語教育学会：読みがたり「長野のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 21) 岐阜県児童文学研究会：読みがたり「岐阜のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 22) 昔話研究会：読みがたり「静岡のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 23) 愛知昔話の会：読みがたり「愛知のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2006
- 24) 三重県小学校国語教育研究会：読みがたり「三重のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 25) 滋賀県小学校教育研究会国語部会：読みがたり「滋賀のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 26) 京都の昔話研究会：読みがたり「京都のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 27) 大阪府小学校国語科教育研究会・「大阪の昔話」編集委員会：読みがたり「大阪のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 28) 兵庫県小学校国語教育連盟：読みがたり「兵庫のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004

- 29) 奈良の昔話研究会：読みがたり「奈良のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 30) 和歌山県小学校教育研究会国語部会：読みがたり「和歌山のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 31) 鳥取県小学校国語教育研究会：読みがたり「鳥取のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 32) 島根県国語教育研究会：読みがたり「島根のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 33) 岡山県小学校国語教育研究会：読みがたり「岡山のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 34) 広島県学校図書館協議会：読みがたり「広島のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 35) 山口県小学校教育研究会国語部：読みがたり「山口のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 36) 「徳島のむかし話」編集委員会：読みがたり「徳島のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2006
- 37) 香川県国語教育研究会：読みがたり「香川のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 38) 愛媛県教育研究協議会国語委員会：読みがたり「愛媛のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 39) 土佐教育研究会：読みがたり「高知のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 40) 福岡県民話研究会：読みがたり「福岡のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 41) 佐賀県小学校教育研究会国語部会：読みがたり「佐賀のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 42) 長崎県小学校教育研究会国語部：読みがたり「長崎のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 43) 熊本県小学校教育研究会国語部会：読みがたり「熊本のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 44) 大分県小学校国語教育研究会：読みがたり「大分のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2004
- 45) 宮崎県民話研究会：読みがたり「宮崎のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 46) 鹿児島県のむかし話研究会・鹿児島県小学校教育研究会国語部会：読みがたり「鹿児島のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 47) 沖縄昔の会：読みがたり「沖縄のむかし話」日本標準 郷土文化研究室 2005
- 48) 林 鎮代「象徴としての“鬼”と“トッケビ”」関西国際大学研究紀要第12号 2011
- 49) 林 鎮代『読みがたり』に登場する“鬼”」関西国際大学研究紀要第13号 2012
- 50) 関敬吾：著「日本昔話大成3」 角川書店 1978
- 51) 関敬吾：著「日本昔話大成6」 角川書店 1978
- 52) 関敬吾：著「日本昔話大成6」 角川書店 1978
- 53) 河合隼雄：「昔話と日本人の心」岩波書店 1982

Abstract

"Oni" who appears in old tales, is generally expressed, saying "growing one or two angles on the head", "the color of big body is red, blue or black ", "hairy and power being strong ", etc. So they are imagined as a male in many cases. "Oni" lives in the heart of the mountains and comes to village. He also kidnaps food, property, and a daughter. Its existence is evil and it is to be eradicated by human being at the end of the talk.

"Yomigatari" of 47 volumes were edited from 2004 to 2005. Those were reedited to make practical and educational use for children. In "Yomigatari", female "Oni" slightly appears, and there are some tales in which "Oni" is not eradicated by human being. While female "Oni" is appeared as old woman, male "Oni" does not have any relation to his age.

Is there any relation between the sex of "Oni" and the subject of a tale? Is there any relation between the sex of "Oni" and the contents which should be informed of a child? This study analyzes how the difference of the sex of "Oni" influences the subject of a tale through "Yomigatari".